

『キリストのからだなる教会』 エペソ人への手紙1章20～23節 2015.10.25(主日礼拝説教より)

『キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。』エペソ4:16

◆パウロは『教会はキリストの体』と語り、エペソ書で10回も「からだ」について言及している。「体」は、バラバラだったものが一つに結ばれ、平和(調和)を保ち、各部分が力に応じて働き、愛のうちに成長するのだと教える！教会は「建物」ではなく、この世から神に召し出された「生きた者たちの集まり」である。キリストをかしらとするこの体は、この世的な「争い、分裂、妬み憎しみ…」等とは無縁…のはず！それは、世界に一つの公同の教会(教会員数約21億人)を指しており、カリックとプロテスタントの区別、〇〇派、□△教団もない！

◆体には、堅い骨と柔らかく伸縮自在に力を発揮する筋肉、それらを結ぶ「腱」(上記聖句の「結び目(アフェ-)」は「腱」の意)、体全体のバランスを整えるホルモン等がある。教会は牧師だけ(骨)だけでは成立せず、骨と結ばれて力を発揮する信徒たちが要る。また教会が、不平不満、分裂分派でバランスを崩した時、祈り、仲裁し、教会(牧師)の味方となり、全体の調和と平和を回復するホルモンのような人も要る。

◆マルコ2章に、中風の病人がキリストのもとへ床で運ばれ癒された記事がある。ここに「キリストの体なる教会」の明確な役割を見る。第一は「憐れみ」。教会には、苦しむ者を見過ごせない心がある。第二に「奉仕」。教会には、憐れみの声に答えて協力する者たちがいる。第三に教会には「勇気と大胆な信仰」がある。彼らは大勢の人ばかりでも諦めず、大胆な信仰で屋根に穴をあけ、病む友をイエスのもとに吊下ろした。第四に教会には「一致」がある。理屈ではとても納得できなくても、愛ゆえに一致し、喜んで力を合わせ、キリストの奇跡を見る。そこに居合わせた者たちは、神を賛美し崇めたとある(マルコ2:12)！キリストをかしらとする教会は、(脳からの)神の愛の指令に喜んで力を発揮する筋肉であり、悩みの時の慰めとなり、平和を保ち、愛のうちに固く結ばれて成長する体である。自分に出来ることを見つけ、今の自分の居場所で愛の役割を果たす者であり続けたい！